

理事会・新年懇親会 のお知らせ

理事会
期日：平成24年1月9日(月) 13:00～
会場：神奈川県民センター
懇親会：17:10～19:30頃

神奈川施保連ニュース

発行人 岩本 邦雄 編集人 杉山 昌明
発行所 〒235-0021 横浜市磯子区岡村3-15-14
神奈川県の知的障害者施設保護者会連合会
事務局 TEL&FAX 045-751-1010



「あるべき施設像」を考える

情報提供と
グループ討議

～知的障害者を取り巻く諸問題～



十月三十一日(月)横浜市技能文化会館にて神奈川施保連主催の「あるべき施設像」研究会が開催されました。
千葉県、栃木県からも3名の特別参加者を含めて四十一名の参加者がありました。
はじめに嶋田神奈川施保連副会長から事前情報提供をフロッジェクターで午前中約二時間三十分 にわたってスライド映写による次のような説明がありました。
(1)神奈川施保連のこれまででアンケート調査について
障害者自立支援法の影響ならびに利用者の地域生活移行等に関する問題点
施設(法人)ならびに国(行政)に対する提言
(2)「社会保障と税一体改革」のウソ
一体改革の内容
一体改革をどう読むか
(3)「税制抜本的改革」に異議あり
(4)「障害者総合福祉法(仮称)」骨格提言は「絵に描いたモチ」で終わるか



骨格提言の主要点
骨格提言を読んで感じること

以上の事前情報の提供を受けた後、昼食となりました。
昼食後は次の3グループに分かれて、はじめに司会と記録と発表者を決めてからそれぞれのテーマについて意見交換を行いました。

第1グループ

「利用者サービスの現状と問題点は何か、また家族会等としてどう対応しているか」

第2グループ

「地域生活移行」とは何か。そして利用者にとって必要条件は何か。

第3グループ

「入所施設存続の必要性」について説得力のあるアピールはどうあるべきか。

以上、各グループ13～14名で約90分間で意見交換を行い、その後各グループ15分の持ち時間で討議内容を発表し、質疑応答を行いました。



グループ1

家族会としての対応

1. 家族会と施設は車の両輪(保護者・家族会と施設職員)
情報交換の常態化(利用者の生活実態の改善を中心として)
家族会会員同士のコミュニケーション

結果として利用者の生活を安心、安全充実したものにする。家族として自分の子弟を安心して施設に託せる。

グループ1

利用者サービスの現状問題点

1. ハード面の充実(個室化など)
その他、高齢化・高齢化対応
2. 日中活動・余暇活動のきめ細かな支援体制と実行
3. ヒヤリ・ハット(投薬・他害など)
4. 一般的な日常生活支援が不十分
(入浴・食事・余暇活動・排せ介助・医療など)

グループの
発表概要



グループ2

以下の条件が確保できれば、地域生活移行を認めても良い。

- 本人が生き生きと暮らせること
- 金銭的に入所施設と同額であること
- 職員の質・数を確保できること
- 入所施設も地域の一部として、そのセンター的役割を果たすこと。
- 小規模（地域移行）より大規模施設の方が効率的で安心である。
- 地域社会の理解のレベルアップのための事業を推進することと。

グループ3

1. 入所施設が必要な理由

知的障害者の中には、地域で暮らすことが不可能な人がいる。地域移行しても不適合の場合や、高齢化・病弱화가進行することによって、施設での生活が必要になる。知的障害者の中には、健常者が考えも着かない行動（強度行動障害など）を取る人もいるため、施設での生活が絶対に必要である。知的障害の「特性を踏まえた生活支援として、入所施設が必要である。

グループ討議概略

第1グループ

入所施設で日々行っている世話について、単価表に基づいて請求されている。しかし、単価表がみえない。そのため、風呂に入れる人、入れない人がいる。何が平等かわからない。介助ができなくなり、風呂に入れることができない。職員の半分が素人である。素人の人に引継いで問題ないかと心配であったが若い人はよく理解してくれているが、経験者の動きは悪い。慣れているせいかな。園からの報告では事業報告のみで、変わった報告はない。ボランティアが色々やってくれる。しかし、今は集まらなくなつた。

ある園生の意欲及び高齢化が問題である。

親の高齢化に伴い、保護者が兄弟になつてきている。強度行動障害者、重度の人が入れる病院がない。施設内の部屋を個室にして欲しいと要請している。

職員のスキル、職員不足、施設運営の問題、人権擁護の観点からもう少しやってもらいたい。全体（全般）サービス等の保護への伝達。施設と保護者会とのコミュニケーションが一つの課題である。

午後なにをやっているか、みえい。ヒヤリ・ハットがある。薬の飲方及び薬の飲み忘れ。問題として、グループホームの設が老朽化しており、修理費用がかさむ。

部屋は大部屋方式である。利用が3年間で3名づつ減っている。千葉知施連・市川さん他施設経営者との話し合いが大事である。施設と信頼関係を構築することが大事である。職員は親連が育てる。

施設の職員会議に家族会の会長が出席しているが、必要な事だけ家族会に報告している。信頼関係があれば施設と喧嘩にらない。職員にしてみたい事を、親仕掛けて活動する。

お風呂の件は、肢体用のお風呂改善してもらつた活動する。市の経営のため、毎年職員が代っている。

施設の部課長との信頼関係を築けば、家族会の要望等を伝え易い。

利用者への加害行為に対して、今は、両方の親に報告している。と思う。

第2グループ

最初に地域移行は反対であるという強い意見が出ましたが、地域移行は利用者自身が望み、条件が整えば移行しても良いのではないかという意見もあり、集約が難しかった。

第3グループ

テーマに対してどのような切り口で進めるかを話し合った結果、時間の制約もあるので、なぜ入所施設が必要か。アピールの方法をどうするか。の二点に絞って議論した。

なぜ入所施設は必要か（理由）

知的障害を持つ人たちの中には、障害程度が極めて重いあるいは強度行動障害があることなどのため、地域で生活することが不可能な人がいる。また、一旦は地域生活移行した場合であっても、高齢化・病弱화가進行することによって、地域での生活が困難になることがある。そういった人たちにとって入所施設がセーフティネットとして必要である。

知的障害者の中には健常者が考えもつかない行動（強度行動障害）をとるひともいるため、施設での生活指導が絶対に必要である。施設でなくては生活出来ない人が大勢おり、



入所待機者も大勢いる。知的障害者の「特性を踏まえた生活支援」として入所施設が必要である。

（24時間一貫した内容の支援が受けられる、昼夜を分離しない支援施設）

入所施設は地域の福祉の拠点となっている。

（ショートステイ、デイサービス、ケアホームの支援など）

アピールの方法

（意見として出されたもの）入所施設の実態を見てもらう。どのような生活をしているか知ってもらう。

なぜ必要なのかMRなどによる広報活動を通して理解してもらう。

デモ行進を行ない国会に陳情する。場合により、ハンガーストライキも視野に入れる。

他の知的障害者関連団体と協同で行う。

メディアが採り上げてくれるよう働きかける。

メディアに採り上げてもらう方法を考える。

決起集会を行ない、入所施設存続の必要性を訴える。

他の知的障害者関連団体と協同で行う。

政府に対して要望書・意見書を提出する。署名活動を行なう。